

第 8 章 装置情報の設定

8.1 SNMP 情報 (オプション)

8.1.1 snmp service (オプション)

【機能】

SNMP エージェント機能および SNMP トラップ機能の設定

【入力形式】

snmp service <mode>

【パラメタ】

<mode>

- on
SNMP エージェント機能および SNMP トラップ機能を有効にします。
- off
SNMP エージェント機能および SNMP トラップ機能を停止します。

【説明】

SNMP エージェント機能および SNMP トラップ機能を有効にするかどうかを設定します。

【注意】

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

【未設定時】

SNMP エージェント機能を停止するとみなされます。

```
snmp service off
```

8.1.2 snmp agent contact (オプション)

[機能]

SNMP エージェント機能でのルータ管理者の設定

[入力形式]

snmp agent contact [<syscontact>]

[パラメタ]

<syscontact>

- ルータ管理者 (sysContact 値)
本装置の管理者を表す MIB 変数 sysContact を、40 文字以内で指定します。
省略した場合は、設定を削除します。

[説明]

SNMP エージェント機能でのルータ管理者を設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

ルータ管理者を設定しないものとみなされます。

8.1.3 snmp agent sysname (オプション)

[機能]

SNMP エージェント機能での機器名称の設定

[入力形式]

snmp agent sysname [<sysname>]

[パラメタ]

<sysname>

- 機器名称 (sysName 値)
本装置の機器名称を表す MIB 変数 sysName を、32 文字以内で指定します。
省略した場合は、設定を削除します。

[説明]

SNMP エージェント機能での機器名称を設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

機器名称を設定しないものとみなされます。

8.1.4 snmp agent location (オプション)

[機能]

SNMP エージェント機能での機器設置場所の設定

[入力形式]

snmp agent location [<syslocation>]

[パラメタ]

<syslocation>

- 機器設置場所 (sysLocation 値)
本装置の管理者を表す MIB 変数 sysLocation を、72 文字以内で指定します。
省略した場合は、設定を削除します。

[説明]

SNMP エージェント機能での機器設置場所を設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

機器設置場所を設定しないものとみなされます。

8.1.5 snmp manager (オプション)

[機能]

SNMP ホスト情報の設定

[入力形式]

snmp manager <manager_number> <address> <community> <trap> [<write>]

[パラメタ]

<manager_number>

- SNMP ホスト定義番号
SNMP ホスト定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。

<address>

- アクセス許可 / トラップ送信アドレス
アクセス許可およびトラップを送信する宛先 IP アドレスを、XXX.XXX.XXX.XXX(XXX は 3 桁の 10 進数値) の形式で指定します。
0.0.0.0 を指定すると、すべてのホストからのアクセスを許可し、trap 送信は行いません。

<community>

- コミュニティ名を指定します。
- コミュニティ名
トラップを送信するときのコミュニティ名を、1～32 文字で指定します。
- public
任意の SNMP マネージャと通信する場合に指定します。

<trap>

- トラップ送信するかどうかを指定します。
- on
トラップ送信する場合に指定します。
- off
トラップ送信しない場合に指定します。

<write>

- SNMP マネージャからの書き込みを許可するかどうか指定します。
- enable
SNMP マネージャからの書き込みを許可する場合に指定します。
- disable
SNMP マネージャからの書き込みを許可しない場合に指定します。
省略した場合は、disable を指定したものとみなされます。

[説明]

SNMP ホストの情報を設定します。

[注意]

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

[未設定時]

SNMP ホストの情報を設定しないものとみなされます。

8.1.6 snmp manager delete (オプション)

【機能】

SNMP ホスト情報の削除

【入力形式】

snmp manager delete <manager_number>

【パラメタ】

<manager_number>

- SNMP ホスト定義番号
削除する SNMP ホスト定義の通し番号を、0～1 の 10 進数値で指定します。
- all
すべての SNMP ホスト定義番号を削除する場合に指定します。

【説明】

SNMP ホスト情報を削除します。

【注意】

このコマンドは、Si-R30 拡張オプションソフトウェアをインストールしたときに使用できます。

8.2 システムログ情報

8.2.1 syslog server

[機能]

システムログ情報の受信サーバの設定

[入力形式]

syslog server [<address>]

[パラメタ]

<address>

- IP アドレス

システムログ情報 (メッセージ) を受信するサーバの IP アドレスを指定します。省略した場合は、設定を削除します。

[説明]

システムログ情報 (メッセージ) を受信するサーバを設定します。

以下に、システムログ情報の出力方法を示します。

- 1) “syslog server <address>” で設定した IP アドレスのホストに送信する。
- 2) dsplog コマンドで表示する。

[未設定時]

システムログ情報を受信するサーバを指定しないものとみなされます。

8.2.2 syslog pri

【機能】

システムログ情報の出力対象プライオリティの設定

【入力形式】

syslog pri <mode>

【パラメタ】

<mode>

- プライオリティ

システムログ情報を出力する対象となるプライオリティを、以下の中から指定します。複数指定する場合は、","(カンマ) で区切ります。

error	プライオリティLOG_ERROR を対象とする場合に指定します。
warn	プライオリティLOG_WARNING を対象とする場合に指定します。
notice	プライオリティLOG_NOTICE を対象とする場合に指定します。
info	プライオリティLOG_INFO を対象とする場合に指定します。

【説明】

システムログ情報を出力する対象となるプライオリティを指定します。

【未設定時】

何も指定しないものとみなされ、システムログ情報は収集されません。

8.2.3 syslog facility

【機能】

システムログ情報の出力対象ファシリティの設定

【入力形式】

syslog facility <num>

【パラメタ】

<num>

- ファシリティ

システムログ情報の出力対象となるファシリティ(種別) を、0～23 の 10 進数値で設定します。

0 を指定するとカーネルメッセージのみ出力対象とします。

23 を指定するとすべてのメッセージを出力対象とします。

【説明】

システムログ情報を出力する対象となるファシリティを指定します。

【未設定時】

0 を指定したものとみなされます。

```
syslog facility 0
```

8.2.4 syslog dupcut

【機能】

システムログ情報の重複メッセージ出力の設定

【入力形式】

syslog dupcut <cut>

【パラメタ】

<cut>

- yes
直前に出力されたメッセージが重複した場合、出力しません。
- no
重複チェックを行わず、すべてのメッセージを出力します。

【説明】

システムログにメッセージを出力する際、直前に出力したメッセージと重複した場合に出力するかどうかを指定します。

【未設定時】

重複チェックを行わないものとみなされます。

```
syslog dupcut no
```

8.3 自動時刻設定情報

8.3.1 time auto server

[機能]

時刻情報の提供サーバの設定

[入力形式]

time auto server <address> <protocol>

[パラメタ]

<address>

- IP アドレス
時刻情報を提供しているサーバの IP アドレスを指定します。

<protocol>

使用するプロトコルを指定します。

- time
TIME プロトコル (TCP) を使用する場合に指定します。
- sntp
簡易 NTP プロトコル (UDP) を使用する場合に指定します。

[説明]

時刻提供サーバの情報を設定します。

“time auto server” の<address>で指定した時刻提供サーバから、<protocol>で指定したプロトコルを使用して、自動的に時刻を設定します。

[未設定時]

自動時刻設定を行わないものとみなされます。

8.3.2 time auto interval

【機能】

時刻情報の自動設定間隔の設定

【入力形式】

time auto interval <time>

【パラメタ】

<time>

時刻情報を設定する間隔を指定します。

- start
電源投入時またはリセット時に一度だけ、時刻情報を設定する場合に指定します。
- 間隔
時刻情報を設定する間隔を、0 秒～最大 10 日の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

【説明】

自動時刻を設定する間隔を設定します。

【未設定時】

時刻提供サーバを使用する場合のみ、電源投入時またはリセット時に一度だけ時刻情報設定するものとみなされます。

```
time auto interval start
```

8.3.3 time auto delete

【機能】

時刻情報の自動設定の削除

【入力形式】

time auto delete

【説明】

自動時刻設定の設定情報を削除します。

8.3.4 time zone

【機能】

時刻情報のタイムゾーンの設定

【入力形式】

time zone <offset>

【パラメタ】

<offset>

- 差分

本装置が使用するタイムゾーンを指定します。

GMT(グリニッジ標準時間) からの時差を指定します。日本で使用する場合は、0900 を指定してください。

【説明】

タイムゾーンを設定します。

【未設定時】

time zone 0

8.4 ProxyDNS 情報

8.4.1 proxydns domain

[機能]

プロキシ DNS の順引き動作条件の設定

[入力形式]

proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> / <mask> reject (転送要求の破棄)
 proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> / <mask> static <ipaddress> (固定 DNS サーバ指定)
 proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> / <mask> to <remote_number> (相手ネットワーク指定)

[パラメタ]

<count>

- 転送先定義番号

転送先定義番号として、0～31 の 10 進数値を指定します。

指定した値は、設定完了時に順方向にソートされてリナンバリングされます。また、指定した定義番号と同じ値を持つ転送先定義番号が存在する場合は、既存定義の前に挿入されます。

<qtype>

- 問い合わせタイプ番号

1～11、または 13～65535 の 10 進数値を指定します。

以下に、問い合わせタイプの一部分を示します。

名称	番号	説明
A	1	ホスト・アドレス
NS	2	ドメインに対して認証されたネーム・サーバ
CNAME	5	別名 (Alias 名、ドメイン名)
SOA	6	ゾーン管理開始
PTR	12	ドメイン名空間の他の部分へのポインタ
HINFO	13	ホストが使用する CPU と OS
MX	15	ドメインに対するメール交換
SRV	33	サービス

- any

PTR(12) を除くすべてのタイプを対象する場合に指定します。

<qname>

- ホスト名

条件となるホスト名を、80 文字以内で指定します。

ホスト名には、以下のワイルドカードを使用できます。

- *(アスタリスク)
0 文字以上の任意の文字列とみなされます。
- ?(クエスチョンマーク)
任意の一文字とみなされます。

以下に、ワイルドカードを使用したホスト名の記述例および一致例を示します。

www.*.com

以下のどの文字列とも一致するとみなされます。

- www.testa.com
- www.test1.test.com

test

以下のどの文字列とも一致するとみなされます。

- www.test.com
- test.com
- test.co.jp

www.test?.com

以下のどの文字列とも一致するとみなされます。

- www.test1.com
- www.test2.com
- www.testA.com

なお、ホスト名をチェックするときに、大文字と小文字の区別はされません。

<address>/<mask>

対象となる送信元 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- 送信元 IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)

対象となる送信元 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。

- any

すべてのアドレスを対象とする場合に指定します。

0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

<ipaddress>

- DNS サーバ IP アドレス

要求を転送する DNS サーバの IP アドレスを指定します。

<remote_number>

- 転送先相手定義番号

相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。

[説明]

プロキシ DNS の順引き動作条件を設定します。

各コマンドについて説明します。

転送要求の破棄

```
proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> /<mask> reject
```

指定した DNS 要求の転送を無効にするフィルタを設定します。

<qname> で指定するホスト名は、DNS データベースに登録されていても、そのホスト (群) へのアクセスを制限する場合に使用します。条件と一致した場合は破棄されます。

固定 DNS サーバの指定

```
proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> /<mask> static <ipaddress>
```

指定した DNS 要求の転送先 IP アドレスを指定します。

以下の場合に有効です。

- 専用線に接続する場合
- LAN 側に DNS サーバが存在する場合
- リモート側の DNS サーバを固定にする場合

転送先への経路は、IP ルーティングにしたがって決められます。

相手ネットワークの指定

```
proxydns domain <count> <qtype> <qname> <address> / <mask> to <remote_number>
```

リモート側の回線の DNS サーバを使用します。

リモート定義でマルチルーティングを定義している場合は、その設定に従います。回線切断中は、アクセスポイントの接続優先順位に従います。

【未設定時】

プロキシ DNS の順引き動作条件を設定しないものとみなされます。

8.4.2 proxydns domain move

【機能】

プロキシ DNS の順引き動作条件の順序の変更

【入力形式】

```
proxydns domain move <count> <new_count>
```

【パラメタ】

<count>

- 変更前転送先定義番号
順序を変更する転送先定義番号を指定します。

<new_count>

- 新しい転送先定義番号
<count>に対して、新しい順序を指定します。
既にこの定義番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

【説明】

プロキシ DNS の順引き動作条件の順序を変更します。
既に存在する転送先定義番号と同じ番号を指定した場合には、指定した定義の前に挿入されます。

8.4.3 proxydns domain delete

【機能】

プロキシ DNS の順引き動作条件の削除

【入力形式】

proxydns domain delete <count>

【パラメタ】**<count>**

削除する転送先定義を指定します。

- 転送先定義番号
削除する転送先定義番号を指定します。
- all
すべての転送先定義番号を削除する場合に指定します。

【説明】

プロキシ DNS の順引き動作条件を削除します。

8.4.4 proxydns address

[機能]

プロキシ DNS の逆引き動作条件の設定

[入力形式]

proxydns address <count> <address> / <mask> reject (転送要求の破棄)
proxydns address <count> <address> / <mask> static <ipaddress> (固定 DNS サーバ指定)
proxydns address <count> <address> / <mask> to <remote_number> (相手ネットワーク指定)

[パラメタ]

<count>

- 転送先定義番号

転送先定義番号として、0～31 の 10 進数値を指定します。

指定した値は、設定完了時に順方向にソートされてリナンバリングされます。また、指定した定義番号と同じ値を持つ転送先定義番号が存在する場合は、既存定義の前に挿入されます。

<address>/<mask>

逆引き対象 IP アドレス、マスクビット数を指定します。

- 逆引き対象 IP アドレス/マスクビット数 (またはマスク値)
逆引き対象 IP アドレスとマスクビット数の組み合わせを指定します。
マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
- any
すべてのアドレスの逆引きを対象とする場合に指定します。

<ipaddress>

- DNS サーバ IP アドレス
要求を転送する DNS サーバの IP アドレスを指定します。

<remote_number>

- 転送先相手定義番号
相手ネットワークの通し番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。

[説明]

プロキシ DNS の逆引き動作条件を設定します。

各コマンドについて説明します。

転送要求の破棄

```
proxydns address <count> <address> / <mask> reject
```

指定した DNS 要求の転送を無効にするフィルタを設定します。

<qname>で指定するホスト名は、DNS データベースに登録されていても、そのホスト (群) へのアクセスを制限する場合に使用します。条件と一致した場合は破棄されます。

固定 DNS サーバの指定

```
proxydns address <count> <address> / <mask> static <ipaddress>
```

指定した DNS 要求の転送先 IP アドレスを指定します。

以下の場合に有効です。

- 専用線に接続する場合

- LAN 側に DNS サーバが存在する場合
- リモート側の DNS サーバを固定にする場合

転送先への経路は、IP ルーティングにしたがって決められます。

相手ネットワークの指定

```
proxydns address <count> <address>/<mask> to <remote_number>
```

リモート側の回線の DNS サーバを使用します。

リモート定義でマルチルーティングを定義している場合は、その設定に従います。回線切断中は、アクセスポイントの接続優先順位に従います。

【未設定時】

プロキシ DNS の逆引き動作条件を設定しないものとみなされます。

8.4.5 proxydns address move

【機能】

プロキシ DNS の逆引き動作条件の順序の変更

【入力形式】

proxydns address move <count> <new_count>

【パラメタ】

<count>

- 変更前転送先定義番号
順序を変更する転送先定義番号を指定します。

<new_count>

- 新しい転送先定義番号
<count>に対して、新しい順序を指定します。
既にこの定義番号を持つ定義が存在する場合には、その定義の前に挿入されます。

【説明】

プロキシ DNS の逆引き動作条件の順序を変更します。
既に存在する転送先定義番号と同じ番号を指定した場合には、指定した定義の前に挿入されます。

8.4.6 proxydns address delete

【機能】

プロキシ DNS の逆引き動作条件の削除

【入力形式】

proxydns address delete <count>

【パラメタ】

<count>

削除する転送先定義を指定します。

- 転送先定義番号
削除する転送先定義番号を指定します。
- all
すべての転送先定義番号を削除する場合に指定します。

【説明】

プロキシ DNS の逆引き動作条件を削除します。

8.4.7 proxydns unicode

【機能】

プロキシ DNS の問い合わせパケットの透過の可否の設定

【入力形式】

proxydns unicode <action>

【パラメタ】

<action>

パケットを透過するかどうかを指定します。

- pass
該当するパケットを透過する場合に指定します。
- reject
該当するパケットを破棄する場合に指定します。

【説明】

プロキシ DNS の問い合わせ名 (QNAME) に非表示文字が含まれる場合に、その問い合わせのパケットを透過するかどうかを設定します。

【未設定時】

該当パケットを破棄するものとみなされます。

```
proxydns unicode reject
```

8.5 ホストデータベース情報

8.5.1 host name

[機能]

ホストデータベース情報のホスト名の設定

[入力形式]

host <number> name <name>

[パラメタ]

<number>

- 定義番号
ホストデータベース情報の定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

<name>

- ホスト名
ホスト名を、英数字、"-"(ハイフン)、"."(ピリオド) で構成される 80 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

本装置配下に接続されたホストのホスト名をホストデータベースに設定します。

本コマンドは、簡易 DNS サーバ機能、DHCP スタティック機能、リモートパワーオン機能から利用されます。

以下に、各機能とパラメタの関係を示します。

機能	パラメタ	name	ip_address	mac_address	wakeup_id	rpon
簡易DNSサーバ	○		○	-	-	-
DHCPスタティック	-		○	○	-	-
リモートパワーオン (ISDN接続先から)	-		-	○	○	-
リモートパワーオン (手動/schedule)	-		-	○	-	○

○ : 有効 - : 無効

[未設定時]

ホストデータベースを設定しないものとみなされます。

8.5.2 host ip address

【機能】

ホストデータベース情報の IP アドレスの設定

【入力形式】

host <number> ip address <ip_address>

【パラメタ】

<number>

- 定義番号
ホストデータベース情報の定義番号を、0～31の10進数値で指定します。

<ip_address>

- IP アドレス
ホストの IP アドレスを指定します。

【説明】

本装置配下に接続されたホストの IP アドレスをホストデータベースに設定します。

本コマンドは、簡易 DNS サーバ機能、DHCP スタティック機能、リモートパワーオン機能から利用されます。

以下に、各機能とパラメタの関係を示します。

機能	パラメタ	name	ip_address	mac_address	wakeup_id	rpon
簡易DNSサーバ	○	○	-	-	-	-
DHCPスタティック	-	○	○	○	-	-
リモートパワーオン	-	-	-	○	○	-
(ISDN接続先から)						
リモートパワーオン	-	-	-	○	-	○
(手動/schedule)						

○:有効 -:無効

【未設定時】

ホストデータベースを設定しないものとみなされます。

8.5.3 host mac

[機能]

ホストデータベース情報の MAC アドレスの設定

[入力形式]

host <number> mac <mac_address>

[パラメタ]

<number>

- 定義番号
ホストデータベース情報の定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

<mac_address>

- MAC アドレス
ホストの MAC アドレスを、xx:xx:xx:xx:xx:xx(xx は 2 桁の 16 進数値) の形式で指定します。

[説明]

本装置配下に接続されたホストの MAC アドレスをホストデータベースに設定します。

本コマンドは、簡易 DNS サーバ機能、DHCP スタティック機能、リモートパワーオン機能から利用されます。

以下に、各機能とパラメタの関係を示します。

機能	パラメタ	name	ip_address	mac_address	wakeup_id	rpon
簡易DNSサーバ	○		○	-	-	-
DHCPスタティック	-		○	○	-	-
リモートパワーオン (ISDN接続先から)	-		-	○	○	-
リモートパワーオン (手動/schedule)	-		-	○	-	○

○ : 有効 - : 無効

[未設定時]

ホストデータベースを設定しないものとみなされます。

8.5.4 host wakeid

【機能】

ホストデータベース情報の Wakeup-ID の設定

【入力形式】

host <number> wakeid <wakeup_id>

【パラメタ】

<number>

- 定義番号
ホストデータベース情報の定義番号を、0～31の10進数値で指定します。

<wakeup_id>

- Wakeup-ID
Wakeup-ID を、0x21,0x23～0x7eの19文字以内ASCII文字列で指定します。

【説明】

本装置配下に接続されたホストの Wakeup-ID をホストデータベースに設定します。

本コマンドは、簡易DNSサーバ機能、DHCPスタティック機能、リモートパワーオン機能から利用されます。

以下に、各機能とパラメタの関係を示します。

機能	パラメタ	name	ip_address	mac_address	wakeup_id	rpon
簡易DNSサーバ	○	○	-	-	-	-
DHCPスタティック	-	○	○	○	-	-
リモートパワーオン (ISDN接続先から)	-	-	-	○	○	-
リモートパワーオン (手動/schedule)	-	-	-	○	-	○

○:有効 -:無効

【未設定時】

ホストデータベースを設定しないものとみなされます。

8.5.5 host rpon

【機能】

ホストデータベース情報のリモートパワーオン対象の設定

【入力形式】

host <number> rpon <rpon>

【パラメタ】

<number>

- 定義番号
ホストデータベース情報の定義番号を、0～31 の 10 進数値で指定します。

<rpon>

リモートパワーオンの対象にするかどうかを設定します。

- off
リモートパワーオンの対象にしません。

【説明】

本装置配下に接続されたホストのリモートパワーオン情報をホストデータベースに設定します。

本コマンドは、簡易 DNS サーバ機能、DHCP スタティック機能、リモートパワーオン機能から利用されます。

以下に、各機能とパラメタの関係を示します。

機能	パラメタ	name	ip_address	mac_address	wakeup_id	rpon
簡易DNSサーバ	○		○	-	-	-
DHCPスタティック	-		○	○	-	-
リモートパワーオン (ISDN接続先から)	-		-	○	○	-
リモートパワーオン (手動/schedule)	-		-	○	-	○

○ : 有効 - : 無効

【未設定時】

リモートパワーオンの対象にするものとみなされます。

8.5.6 host delete

【機能】

ホストデータベース情報の削除

【入力形式】

host delete <number>

【パラメタ】

<number>

- 定義番号
削除するホストデータベース情報の定義番号を指定します。
- all
すべてのホストデータベース情報を削除する場合に指定します。

【説明】

ホストデータベースの情報を削除します。

8.6 パスワード 情報

8.6.1 password set

[機能]

ログオンパスワードの設定

[入力形式]

password set <pass> [encrypted]

[パラメタ]

<pass>

- パスワード
パスワードの文字列を、0x21,0x23～0x7e の 16 文字以内の ASCII 文字で指定します。
- 暗号化されたパスワード
show コマンドで表示される暗号化されたパスワードを encrypted と共に指定します。
show コマンドで表示される文字列をそのまま正確に指定してください。

encrypted

- 暗号化パスワード 指定
<pass>に暗号化されたパスワードを指定する場合に指定します。

[説明]

ログオンパスワードを設定します。
パスワードは、本コマンドで設定した直後に有効となります。

[注意]

show コマンドでは、暗号化されたパスワードが encrypted と共に表示されます。

[未設定時]

パスワードは設定されていません。

8.6.2 password delete

【機能】

ログオンパスワードの削除

【入力形式】

password delete

【説明】

ログオンパスワードを削除します。

8.7 スケジュール情報

8.7.1 schedule at

[機能]

システムスケジュールの日時指定コマンドの設定

[入力形式]

schedule <number> at <day> <time> <command>

[パラメタ]

<number>

スケジュール定義を指定します。

- スケジュール定義番号
スケジュール定義番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
- any
スケジュール定義番号を省略する場合に指定します。

<day>

- 日
スケジュールの実行日または開始日を、1～31 の 10 進数値で指定します。
- 曜日
スケジュールの実行曜日または開始曜日を、以下の中から指定します。

sun	日曜日
mon	月曜日
tue	火曜日
wed	水曜日
thu	木曜日
fri	金曜日
sat	土曜日

複数の曜日を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。

- any
スケジュールの実行日または開始日を毎日とする場合に指定します。
電源投入時または再起動時は、本パラメタを指定してください。

<time>

- 実行時間
実行する時、分を、0～9 の 4 桁の 10 進数値で指定します (例: 0635 = 午前 6 時 35 分、2330 = 午後 11 時 30 分)。

<command>

実行するコマンド文字列を指定します。

- isdnstat -dramc
課金情報をクリアする場合に指定します。
- disconnect all
強制切断する場合に指定します。
- power low
スタンバイモードへ移行する場合に指定します。
- power high
スタンバイモードを解除する場合に指定します。
- absence on
留守モードへ移行する場合に指定します。
- absence off
留守モードを解除する場合に指定します。

【説明】

システムスケジュールを設定します。
このスケジュールに従って、指定した時刻にコマンドを実行します。

【未設定時】

スケジュール情報を設定しないものとみなされます。

8.7.2 schedule in

[機能]

システムスケジュールの期間指定動作の設定

[入力形式]

schedule <number> in <day> <time> <action>

[パラメタ]

<number>

スケジュール定義を指定します。

- スケジュール定義番号
スケジュール定義番号を、0～15 の 10 進数値で指定します。
- any
スケジュール定義番号を省略する場合に指定します。

<day>

- 日
スケジュールの実行日または開始日を、1～31 の 10 進数値で指定します。
- 曜日
スケジュールの実行曜日または開始曜日を、以下の中から指定します。

sun	日曜日
mon	月曜日
tue	火曜日
wed	水曜日
thu	木曜日
fri	金曜日
sat	土曜日

複数の曜日を指定する場合は、","(カンマ) で区切って指定します。

- any
スケジュールの実行日または開始日を毎日とする場合に指定します。
電源投入時または再起動時は、本パラメタを指定してください。

<time>

- 開始時刻～終了時刻
開始時刻～終了時刻を、0～9 の 4 桁の 10 進数値で指定します。開始時刻と終了時刻の間は、"-"(ハイフン) でつなぎます (例: 0900-1700 = 午前 9 時から午後 5 時まで、2300-0800 = 午後 11 時から翌午前 8 時まで)。

<action>

動作を指定します。

- diallock
<time>で指定した時刻の間、自動発信を抑止します。
- dialreject
<time>で指定した時刻の間、自動着信を抑止します。
- timerctl
<time>で指定した時間の間、無通信監視タイマによる切断を行いません。ただし、相手情報の接続保持情報が設定が無効 (off) の場合は対象になりません。

【説明】

システムスケジュールを設定します。
このスケジュールに従って、指定した時刻の間、ある状態を維持することができます。

【未設定時】

スケジュール情報を設定しないものとみなされます。

8.7.3 schedule delete

【機能】

システムスケジュールの削除

【入力形式】

schedule delete <number>

【パラメタ】

<number>

削除するスケジュール定義を指定します。

- スケジュール定義番号
削除するスケジュール定義番号を指定します。
- all
すべてのスケジュール定義を削除する場合に指定します。

【説明】

システムスケジュールを削除します。

8.8 電話番号変更予約情報

8.8.1 dnconvinfo date

[機能]

電話番号変更予約の日時の設定

[入力形式]

dnconvinfo <index> date <date>

[パラメタ]

<index>

- 登録番号
電話番号変更予約情報の登録番号を、0～3の10進数値で指定します。

<date>

- 変更日時
変更日時を、yymmddHHMMの形式で指定します。

yy	西暦の下2桁を指定します。西暦2036年まで指定できます。
mm	月を、1～12の10進数値で指定します。
dd	日付を、1～31の10進数値で指定します。
HH	時間を、0～23の10進数値で指定します。
MM	分を、0～59の10進数値で指定します。

[説明]

すべての構成定義情報の電話番号を一括変更する場合に必要な、電話番号変更日時を設定します。変更処理は、以下の2つの方法によって行われます。

- 時刻指定によって、スケジュール機能から自動的に実施します。
なお、スケジュール機能によって実施した場合は、定義情報が保存され、システムがリセットされます。
- 時刻指定によらずに、コマンドで実施します。

[注意]

以下に、スケジュール機能によって電話番号変更を実施する場合の注意事項を示します。

- 装置の時刻を正しく設定してください。
- 実施時刻に、装置の電源を投入しておいてください。

[例]

以下に、構成定義情報に定義されている電話番号123456789を、1999年1月1日午前2時にすべて999999999へ変更する場合の設定例を示します。

```
# dnconvinfo 0 date 9901010200
# dnconvinfo 0 dial 0 123456789 99999999
# show dnconvinfo
0 date 9901010200
0 dial 0 123456789 99999999
#
```

【未設定時】

電話番号変更予約情報を設定しないものとみなされます。

8.8.2 dnconvinfo dial

【機能】

電話番号変更予約の電話番号の設定

【入力形式】

dnconvinfo <index> dial <count> <src_number> <dst_number>

【パラメタ】

<index>

- 登録番号
電話番号変更予約情報の登録番号を、0～3の10進数値で指定します。

<count>

- 電話番号情報定義番号
電話番号情報の定義番号を、0～3の10進数値で指定します。

<src_number>

- 変更前電話番号
変更対象の電話番号を、0～9の数字と、*、#、-、(、)、\の文字で構成される32桁以内のASCII文字列で指定します。

<dst_number>

- 変更後電話番号
変更後の電話番号を、0～9の数字と、*、#、-、(、)、\の文字で構成される32桁以内のASCII文字列で指定します。

【説明】

すべての構成定義情報の電話番号を一括変更する場合に必要な、変更電話番号を設定します。
変更処理は、以下の2つの方法によって行われます。

- 時刻指定によって、スケジュール機能から自動的に実施します。
なお、スケジュール機能によって実施した場合は、定義情報が保存され、システムがリセットされます。
- 時刻指定によらずに、コマンドで実施します。

【注意】

以下に、スケジュール機能によって電話番号変更を実施する場合の注意事項を示します。

- 装置の時刻を正しく設定してください。
- 実施時刻に、装置の電源を投入しておいてください。

【例】

以下に、構成定義情報に定義されている電話番号123456789を、1999年1月1日午前2時にすべて999999999へ変更する場合の設定例を示します。

```
# dnconvinfo 0 date 9901010200
# dnconvinfo 0 dial 0 123456789 to 999999999
# show dnconvinfo
0 date 9901010200
0 dial 0 123456789 to 999999999
#
```

【未設定時】

電話番号変更予約情報を設定しないものとみなされます。

8.8.3 dnconvinfo dial delete

【機能】

電話番号変更予約の電話番号の削除

【入力形式】

dnconvinfo <index> dial delete <count>

【パラメタ】

<index>

- 登録番号
電話番号変更予約情報の登録番号を、0～3 の 10 進数値で指定します。

<count>

- 電話番号情報定義番号
削除する電話番号情報の定義番号を指定します。
- all
すべての電話番号情報を削除する場合に指定します。

【説明】

変更電話番号を削除します。

8.8.4 dnconvinfo delete

【機能】

電話番号変更予約の削除

【入力形式】

dnconvinfo delete <index>

【パラメタ】

<index>

- 登録番号
削除する電話番号変更予約情報の登録番号を指定します。
- all
すべての電話番号変更予約情報を削除する場合に指定します。

【説明】

電話番号変更予約情報を削除します。

8.9 ファームウェア更新情報

8.9.1 updateinfo

[機能]

ファームウェア更新情報の設定

[入力形式]

updateinfo <host> <user> <pass> <pathname>

[パラメタ]

<host>

- ホスト名
更新するファームウェアが存在するホスト名を、0x21,0x23～0x7e の 128 文字以内の ASCII 文字列を指定します。
ホスト名を指定した場合は、ルータ装置が DNS サーバを使用可能な状態でなければなりません。
- IP アドレス
更新するファームウェアが存在するホストの IP アドレスを指定します。
ルータ装置が DNS サーバを利用できない場合に、IP アドレスを直接指定してください。

<user>

- ユーザ名
ファームウェアを更新するときに使用する ftp ユーザ名を、0x21,0x23～0x7e の 16 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

<passname>

- パスワード
ファームウェア更新のときに使用する ftp パスワードを、0x21,0x23～0x7e の 32 文字以内の ASCII 文字列で指定します。anonymous FTP サーバの場合は、管理者のメールアドレスを指定します。

<pathname>

- パス名
更新するファームウェアが存在する ftp サーバ上のパス名を、0x21,0x23～0x7e の 80 文字以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

ファームウェアを更新するための情報を設定します。
“11.1.6 update” で ftp サーバ上のファームウェアを取得する場合は、必ず本コマンドを実行してください。

[未設定時]

ファームウェア更新情報を設定しないものとみなされます。

8.9.2 updateinfo delete

【機能】

ファームウェア更新情報の削除

【入力形式】

updateinfo delete

【パラメタ】

なし

【説明】

ファームウェアを更新するための情報を削除します。

8.10 オンラインサポート 情報

8.10.1 rcmdinfo callin

[機能]

オンラインサポート接続要求の受付可否の設定

[入力形式]

rcmdinfo callin <mode>

[パラメタ]

<mode>

- accept
オンラインサポート接続要求を受け付けます。
- reject
オンラインサポート接続要求を拒否します。

[説明]

オンラインサポート接続要求を受け付けるかどうかを設定します。

[注意]

着信時に通知される相手電話番号と着サブアドレスが、rcmdinfo auth <number> [<subaddress>] の設定内容と一致しない場合、着信を拒否します。

[未設定時]

オンラインサポート接続要求を受け付けるものとみなされます。

```
rcmdinfo callin accept
```

8.10.2 rcmdinfo auth

[機能]

オンラインサポート接続の認証情報の設定

[入力形式]

rcmdinfo auth <number> [<subaddress>]

[パラメタ]

<number>

- 相手電話番号
着信時にチェックする相手電話番号を、0~9 の数字と、*、#、-、(、)、\ の文字で構成される 32 桁以内の ASCII 文字列で指定します。
- any
着信時に相手電話番号をチェックしない場合に指定します。
なお、<subaddress>を指定する場合は、<subaddress>だけをチェックとします。

<subaddress>

- 着サブアドレス
着信時にチェックする着サブアドレスを、0x21,0x23 ~ 0x7e の文字で構成される 19 桁以内の ASCII 文字列で指定します。

[説明]

オンラインサポート接続の着信時にチェックする相手電話番号と着サブアドレスを設定します。着信時に通知される相手電話番号と着サブアドレスが本設定と一致しない場合、着信を拒否します。

[注意]

<number>を any とし<subaddress>を省略した場合には、<subaddress>に本装置の MAC アドレスが設定されているものとみなされます。

初期状態の本装置に対してオンラインサポート接続する場合には、着サブアドレスに本装置の MAC アドレスを 12 桁の 16 進数 (半角小文字の英数字) で指定します。

rcmdinfo callin reject と設定されている場合、本設定に関わらずオンラインサポート接続の着信を拒否します。

[未設定時]

着信時に相手電話番号をチェックしないものとみなされます。

<subaddress>には本装置の MAC アドレスが設定されているものとみなされます。

```
rcmdinfo auth any
```

8.11 マルチ TA 情報

8.11.1 mta service

【機能】

マルチ TA 機能の使用有無の設定

【入力形式】

mta service <mode>

【パラメタ】

<mode>

- 0
マルチ TA 機能を使用しません。
- 1
クライアントの同時アクセス数 1 で使用します。
- 2
クライアントの同時アクセス数 2 で使用します。

【説明】

マルチ TA 機能の使用有無を設定します。

【未設定時】

マルチ TA 機能を使用しないものとみなされます。

```
mta service 0
```

8.11.2 mta mask

【機能】

マルチ TA 機能の利用可能ホストの設定

【入力形式】

mta mask <addr> / <mask>

【パラメタ】

<addr>/<mask>

- 許可 IP アドレス / マスクビット数 (またはマスク値)
マルチ TA 機能の利用を許可するホストの IP アドレス / マスクビット数 (またはマスク値) を指定します。
マスク値は、最上位ビットから 1 で連続した値にしてください。
- any
すべてのホスト (IP アドレス) から使用可能とする場合に指定します。
0.0.0.0/0(0.0.0.0/0.0.0.0) を指定するのと同じ意味になります。

【説明】

マルチ TA 機能の利用を許可するホストの IP アドレス範囲を設定します。

【未設定時】

すべてのホストからの利用を許可するものとみなされます。

```
mta mask any
```

8.11.3 mta timer

【機能】

マルチ TA 機能の強制切断タイマの設定

【入力形式】

mta timer <time>

【パラメタ】

<time>

- 強制切断タイマ

異常課金を防止するための強制切断タイマを、0 秒～86400 秒 (1 日) の範囲で指定します。

単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

0 を指定した場合は、切断されません。

【説明】

マルチ TA 通信時の強制切断タイマの値を設定します。

【未設定時】

強制切断を行わないものとみなされます。

```
mta timer 0d
```

8.12 留守モード 情報

8.12.1 absenceinfo

[機能]

留守モード 情報の設定

[入力形式]

absenceinfo <action,...>

[パラメタ]

<action>

留守モード時の動作を、以下の中から指定します。複数指定する場合は、","(カンマ) で区切ります。ただし、deflection と pseudo は同時に設定できません。

- power
留守中は、スタンバイモードで動作します。
- check
留守モードを解除する時にメールチェックを行ないます。
- tel
留守中は、TEL メールを送信します。
- trans
留守中は、メールを転送します。
- list
留守中は、メールの一覧を送信します。
- deflection
留守中は、着信転送を行います。
- pseudo
留守中は、疑似着信転送を行います。
- homeout
留守中は、アナログの留守確認機能を使用します。

[説明]

留守モード時の動作を設定します。

[未設定時]

留守モード 情報を設定しないものとみなされます。

8.12.2 absenceinfo delete

【機能】

留守モード情報の削除

【入力形式】

absenceinfo delete

【説明】

留守モード情報の設定を削除します。

8.13 その他

8.13.1 consoleinfo

【機能】

シリアルコンソール接続サービスの設定

【入力形式】

consoleinfo autologout <time>

【パラメタ】

<time>

- 強制ログアウト時間

シリアルコンソールでログインしたままコマンド実行が行われない状態が続いたときに強制ログアウトさせる時間を、0 秒 ~ 86400 秒 (1 日) の範囲で指定します。

単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

0 秒を指定した場合には、強制ログアウトしません。

【説明】

シリアルコンソールでログインしたまま<time>で指定した時間内にコマンド実行されなかった場合、強制的にログアウトさせるように設定します。

【未設定時】

強制ログアウトさせないものとみなされます。

```
consoleinfo autologout 0s
```

8.13.2 telnetinfo

【機能】

TELNET 接続サービスの設定

【入力形式】

telnetinfo autologout <time>

【パラメタ】

<time>

- 自動切断時間

telnet 接続したクライアントからコマンド入出力が行われない状態で自動切断するまでの時間を、0 秒 ~ 86400 秒 (1 日) の範囲で指定します。単位は、d(日)、h(時)、m(分)、s(秒) のいずれかを指定します。

【説明】

TELNET コネクションの入出力がない場合にコネクションを切断するまでの時間を設定します。

【未設定時】

TELNET コネクションの入出力の監視を行わないものとみなされます。

```
telnetinfo autologout 0s
```